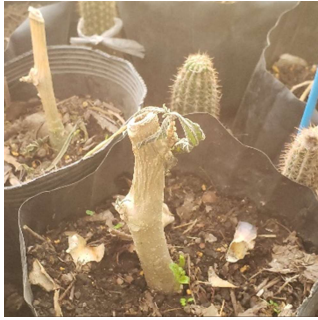


○ 十勝のシバシを生き抜いた彼に、惜しみない声援を

去る2月9日の朝のこと。庭園の管理をしている忠雄さんが血相を変えて飛び込んできました。「大変だ！ハ、ハウスのス、ストーブが止まってんだ！」急いでハウスへと駆けつけてみると、確かに夜間に暖房された形跡はなく、冷え切っていました。ここ数日は-20℃ぐらいまで冷える日が続いており、一晩でもストーブが止



根本付近から顔を出した新芽が見えるでしょうか。

まるとハウスの中でも-10℃を下回るかと思えます。当然寒さに弱い植物はいっぺんに枯れてしまうのですが、中でも白や黄色の大きな花を咲かせるエンジェルトランペットは、ちょうど新芽が出てきたところ。出てきた若葉はことごとくしおれてしまいました。それでもあきらめきれずにしばらく水をやりながら様子を見ていたところ、根本付近から新たな芽が出てきたではありませんか。上部三分の二ぐらいは枯れたようですが、土の近くは凍らずに生きていたようです。これから芽が伸びるとしても例年よりは遅れてしまうかもしれませんが、夏ごろに無事に庭に出ることができましたら、ぜひ「よくやった！」と声をかけてやってください。

○ 少しでも入りやすいお店にするために、あれこれと考えております。

ただでさえ人里から離れた場所にあるうえに、高い木々に囲まれて遠くからは様子が見えない、とお世辞にも駅前のマクドナルドのように「気軽にふらっと立ち寄れる」店でないことは承知しております。数々の難関をくぐり抜けて来園していただけるお客様の後ろには、きっと途中で引き返してしまう数倍のお客様予備軍がいるはず...と、昔から「入りやすいお店にするには」を考え続けております。今回の一工夫は幹線道路から曲がって入ってきた細い道路沿いの電柱に設置した手書きの看板です。これまでも縦書きで「松久園」の看板はありましたが、ずっと同じ看板が続くのは目立ちはするものの面白みがないなあ、と感じていました。この角を曲がってくれたお客さんにお店への期待感を徐々に高めていけないかと、短くても心に届く一言を用意しました。これでばっちりだ、と看板を付けた翌日、出勤したスタッフに「新しい看板どうだった？」と尋ねると「看板なんてありました？全然気づきませんでした。」と。小さいうえに目立たない、と。まだまだ改良が必要なようです。



取り付けた本人は気になってしょうがないので、気付かないなんて信じられない！のですが。

○ どうして君の肌はそんなに白いのか？ それは...



セクシーというより、横柄な上司に見えなくもなし。

以前紹介した猫や羊の湯たんぼカバーに引き続き、またもやフェリシモから不思議なものが届きました。その名も「セクシー大根抱き枕」。ときどきローカルニュースで見かける「面白い形になった野菜や果物」を、逆に商品化してしまうというアイデアに脱帽です。ちなみにオリジナルは1m以上ある正真正銘の抱き枕ですが、我が家にあるのは半分ほどのサイズのもの。それでもかなりの存在感を示しながら、食卓や居間、子ども部屋などを渡り歩いています。伸ばした右手は腕枕を誘っている、のだとか。